第 52 表　軒平瓦分類表４

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
A-039	楼門 55-126		J-22・23 表土	(200)	(144)	50	29	平	×	大坂式			17 – 18C	大坂式の古手。中心飾り中央縦長でやや尖。中心飾り脇，子葉Y字とならず，内側にくびれ。唐草先端尖る。	楼門126
A-040	44	138	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高溜り	–	–	52	29	(平)	○	大坂式			17 – 18C	やや大型。中心飾り中央鳥形，下は大きめの珠点。中心飾り脇・脇下は中央と離れる。唐草立ち気味で，先端尖。子葉やや外開き。A-003類に似るが，子葉位置低。	楼門127
	楼門 55-127		J・K-26・27 造成土	(180)	(173)	45	30								
A-041	楼門 55-128		―	275	170	47	33	平	○	大坂式			17 – 18C	やや大型。中心飾り中央鳥形，下は大きめの点珠，脇・脇下は中央と離れる。唐草やや短く，先端尖る。子葉やや外反。A-003類・A-020類に似るが，右唐草短い。漆喰付着目立つ。	楼門128
A-042	―		―	–	–	65	43	(平)	○	大坂式	二丸472		17 – 18C	焼成硬い。A-011類と同文。中心飾り脇下，先端の尖る唐草状を呈する。唐草先端尖る。子葉横向きで異形。	二丸472
A-043	63	248	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	267	157	55	31	平	×	大坂式			18 – 19C	やや大型。中心飾り中央やや大きく尖り，茎あり。唐草先端尖る。子葉基部，唐草に接する。	248
A-044	44	141	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 七高瓦溜り①	–	–	44	24	桟	×	不明+大坂式		四角に「吉」(刻印041)（左周縁）	18 – 19C	小型。中心飾り中央はやや尖る。唐草は巻込強く先端尖る。子葉はY字状に開く。瓦当上端・下端細く面取り。	141
	44	145	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 七高瓦溜り①	–	–	44	26								
A-045	16	40	北御門跡周辺石垣側／排水溝　上層	–	–	48	33	平	×	大坂式変		短冊に「太喜」」刻印001/短冊に「太喜」刻印002（左周縁）	18 – 19C	唐草・子葉先端が連続し雲状を呈す。	40
	16	41	北御門跡周辺石垣側／排水溝　上層	–	–	50	29								
A-046	86	385	御角櫓跡／L-1　造成土	–	–	53	34	平	×	大坂式			18 – 19C	やや大型。中心飾り下部茎状，脇下小さい。唐草・子葉長く伸び，唐草基部は茎状の中心飾り下に達する。子葉開く	385
A-047	86	384	御角櫓跡／L-1　造成土	–	–	48	28		×	大坂式			18 – 19C	A-016類に似る。焼成硬い。中心飾り中央小さく尖り，脇Y字にならず外に開く。唐草巻き込み強く先端尖る。やや古様。	384
A-048	86	386	御角櫓跡／M-1・2排水溝③　造成土	–	–	39	24	桟	×	連珠三巴右10珠+大坂式		丸に「平」（右周縁）	18 – 19C	軒丸部珠文大きい。中心飾り中央横長で，脇外側に開く。脇と唐草・子葉が連続する。子葉外側は周縁に接する。	386
A-049	44	142	御楼門南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	–	–	131	24	桟	×	連珠三巴右13珠+大坂式		丸に「吉」刻印043-1（右周縁）040-7	18 – 19C	軒丸部巴長い。唐草先端尖る。子葉基部は唐草と接し，外に開く。右周縁広い。	142
A-050	56	222	御楼門南側石垣周辺／N-11 37T カクラン	–	–	39	24		×	大坂式		山に「西」刻印043-1（右周縁）	18 – 19C	中心飾り中央に隆線あり，唐草先端尖る。隅軒平瓦あり(222)。	222
A-051	44	140	御楼門跡南側石垣周辺／M・N-17 43T	–	–	43	24		×	大坂式		四角に「歯（か）」刻印187（右周縁）	18 – 19C	文様縮小。唐草小さく，先端丸い。子葉肥大化。	140
	86	390	御角櫓跡西側石垣周辺	–	–	–	–								
	総括 45-20		唐御門跡	–	–	–	–								
A-052	44	147	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	243	145	43	25	桟	×	(無)+大坂式			18 – 19C	鎌軒桟瓦。中心飾り中央やや尖り，中央下茎状。唐草先端尖る。子葉大きい。	147

第 53 表　軒平瓦分類表５

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
A-053	44	143	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 43T 七高瓦溜り	－	－	41	24	桟	×	連珠三巴右12珠+大坂式		小判に「(不明篆書)」刻印085(左周縁)	18－19C	文様やや細身。唐草先端尖る。	総括146
	総括 88-146		吉野堀/Ⅳ層	－	－	－	－								
A-054	56	221	御楼門跡南側石垣周辺／M-11 37T 造成土	－	－	38	23		×	大坂式		丸に「平」刻印052」(右周縁)	18－19C	中心飾り脇，子葉大きく切込深い。唐草小さく先端丸い。	221
A-055	63	247	御楼門跡南側石垣周辺／M-8 41T カクラン	－	－	38	23	桟	×	(無)+大坂式		四角に「森元」刻印020(左周縁)	18－19C	鎌軒桟瓦。A-032と似る。中心飾り中央雪だるま形。中心飾り脇と子葉は切込深い。中心飾り脇下は長い線状となる。子葉大きい。中心飾り中央と脇・唐草間に笵傷。	247
A-056	44	144	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	－	－	42	22		×	大坂式		短冊に「上伊敷土」刻印007(右周縁)	18－19C	中心飾り脇外側に開く。唐草は巻き込み浅く先端丸い。	144
A-057	8	11	御進物蔵跡／o-33・34 52T カクラン	－	－	49	28		×	大坂式			19C	瓦当薄い。中心飾り脇下は中央部が細くなる。唐草は小さく先端丸い。子葉は大きく切込深い。	11
A-058	16	42	北御門跡周辺/d-35	－	－	42	25	桟	×	(無)+大坂式			18－19C	鎌軒桟瓦。中心飾り脇下に切込入る。中心飾り脇は外に開く。唐草先端は丸い。子葉は大きく切込深い。	42
A-059	119	563	外御庭跡/M-1' 造成土	－	－	41	25		×	大坂式			18－19C	中心飾り脇下に沈線，くびれ。唐草巻込浅く先端丸い。中心飾り脇，子葉切込深い。子葉大きい。	563
A-060	100	496	御角櫓跡西側石垣周辺/F・G-1・2 48T 瓦溜り	－	－	41	23	桟	×	連珠三巴+大坂式		小判に「篆」刻印085(右周縁)	18－19C	中心飾り中央大きい。唐草・子葉は細い。唐草は極めて小さく，先端尖る。子葉長く，内外に大きく開く。	643
	125	643	本丸外御庭/E-1' 42T	－	－	41	22								
A-061	86	387	御角櫓跡/A～C-1～4 造成土	－	－	34	21	桟	×	大坂式		丸に「平」刻印052」(右周縁)	18－19C	鎌軒桟瓦。中心飾り中央に隆線。唐草小さく，先端尖る。子葉やや肥大化する。	387
A-062	86	388	御角櫓/I-1・2 瓦溜り	－	－	38	22		×	大坂式		横長方形に「谷山製」刻印153(右周縁)	18－19C	中心飾り中央やや幅広で中央大きい。脇・子葉の切れ込み深い。唐草巻込浅く，先端丸い。	388
A-063	86	389	御角櫓跡/I-1・2 瓦溜り	－	－	39	23		×	大坂式変		丸に「二」刻印077(右周縁)	18－19C	文様全体的に細く長い。唐草先端は丸い。中心飾り脇下と子葉が連続する。	389
A-064	100	495	御角櫓跡/F・G-1・2 48T カクラン瓦溜り	－	－	40	25	桟	×	(無)+大坂式		小判に「篆」刻印085(右周縁)	18－19C	鎌軒桟瓦。中心飾り中央下茎状。中心飾り脇と子葉は切込深い。唐草先端丸い。中心飾り脇下は長く伸びる。	495
A-065	44	139	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 43T 七高瓦溜り	－	－	－	－	桟	×	連珠三巴右12珠+大坂式			18－19C	軒丸部連珠-巴間，巴中央に笵傷。唐草細く先端丸い。子葉細く長い。	139
	44	146	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 43T 七高瓦溜り	－	－	40	24								
A-066	総括 86-133		琉球館跡/Ⅱ層	－	－	－	－	桟	×	(無)+大坂式			18－19C	中心飾りやや小。中心飾り脇・子葉分離気味。中心飾り脇下細く，斜め沈線。	総括133
B-001	楼門 55-129		M-27 排水溝内	293	209	59	38	平	○	鹿児島式			17－18C	両端Y字状の子葉の下方に一字状の子葉。中心飾り中央キノコ状。中心飾り脇下Y字状に大きく開き，先端丸みを帯びる。唐草巻き込み浅く，先端尖る。	楼門129

第 54 表　軒平瓦分類表６

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
B-002	楼門55-130		J･K-24 瓦集中部造成土 643	(283)	220	64	44	平	(○)	鹿児島式			17－18C	両端Y字状の子葉の下方に一字状の子葉。中心飾り中央碇状。中心飾り脇下Y字状に開く。唐草巻き込み浅く，先端尖る。体長348。体部裏面に×字状条線(4本×5条)。	楼門130
B-003	52	196	御楼門南側石垣周辺/ M･N-12･13 44T 瓦廃棄土坑	－	－〈138〉	64	43	(平)	○	鹿児島式	本丸975		17－18C	B-002類同文。両端Y字状の子葉の下方に一字状の子葉。中心飾り中央碇状。中心飾り脇下Y字状に開く。中心飾り脇・脇下はほぼ同大。唐草巻き込み浅い。体部裏面に×字状条線。	楼門131
	楼門55-131		M-27 焼土	(244)	(193)	(65)	45								
	楼門55-132		L-26 枡排埋土エリア②	―	―	〈61.5〉	45								
B-004	楼門55-133		J-22･23 21T 造成土	―	(78)	(41)	21	桟	×	(無)+鹿児島式			19C	鎌軒桟瓦。中心飾り中央肥大。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	楼門133
B-005	楼門55-134		K-28 造成土	―	141	43	24	桟	×	不明+鹿児島式		四角に「玉水堂」刻印005(右周縁)	19C	中心飾り中央肥大。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	楼門134
B-006	楼門55-135		L-28 造成土	―	(154)	55	29	平	×	鹿児島式	二丸477	丸に「休」刻印039-1/丸に「石」刻印047-1(左周縁)	19C	中心飾り脇大きい。唐草と子葉は一体化し長い。文様両端下方に唐草。	二丸477
B-007	―		―	292	138	43	25	桟	(×)	連珠三巴右12珠+鹿児島式	二丸483	丸に「石」刻印047-1(右周縁)	18－19C	唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。軒丸部径98。	二丸483
B-008	52	201	御楼門跡南側石垣周辺/ MN-1213 44T 瓦廃棄土坑	205	139	45	27	桟	(×)	連珠三巴右14珠+鹿児島式			18－19C	文様大きく広がる。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。軒丸部径92。	201
	－		－	(188)	(59)	－	25				二丸486				
B-009	―		―	(169)	―	―	―	桟	(×)	連珠三巴右12珠+鹿児島式	二丸489		18－19C	唐草と子葉は一体化し，子葉下方に唐草。	二丸489
B-010	52	202	御楼門南側石垣周辺/ M･N-12･13 44T 瓦廃棄土坑	－	－	－	25	桟	(×)	連珠三巴右12珠+鹿児島式			18－19C	軒丸部珠文大きい。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草長く伸びる。	二丸490
	－		－	－	－	42	25				二丸490				
B-011	―		―	280	137	36	20	桟	(×)	(無)+鹿児島式	二丸502	「石」(篆)刻印098(左周縁)	18－19C	鎌軒桟瓦。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。文様全体に細い。	二丸502
B-012	86	391	御角櫓跡/ I-1･2 瓦溜り	－	－	25	－	桟	(×)	(無)+鹿児島式		隅丸長方形に「日置吉利瓦」刻印012	19C	鎌軒桟瓦。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方にやや外下がりに唐草。	本丸966
	総括63-67		本丸東堀/ R-5 63T カクラン	－	－	－	－								
	－	－	－	(180)	(115)	(45)	28				本丸966				
B-013	楼門55-136		M-27 造成土	―	―	(35)	(16)	桟	×	連珠三巴右12珠+鹿児島式		短冊に「太喜」刻印001(右周縁)	19C	小型。文様細い。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	本丸136＋楼門137
	楼門55-137		K-28 造成土	―	―	(36)	(17)								
B-014	―		―	(174)	(75)	39	21	桟	(×)	連三巴右12珠+鹿児島式	本丸970	丸に「小」刻印038-1(右周縁)	19C	唐草と子葉は一体化する。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方にやや上上がりの唐草。	本丸970

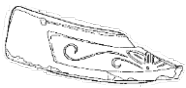
第 55 表　軒平瓦分類表 7

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
B-015	86	393	御角櫓跡/L-1 造成土	－	140	46	26	桟	(×)	連珠三巴右11珠+鹿児島式		丸に「休」刻印039-1(右周縁)	19C	唐草と子葉は一体化し長い。文様両端下方に唐草。	392
	86	392	御角櫓跡/M-1 排水溝②埋土	－	140	42	25								
	－	－	－	(167)	－	－	24				本丸1017				
B-016	48	171	後楼門跡南側石垣周辺／M-15 36T 瓦溜り	－	－	64	42	桟	○	鹿児島式			17－18C	文様区両端の下方に一字状の子葉。	171
B-017	86	394	御角櫓跡/I-1・2 瓦溜り	－	－	43	23	桟	×	鹿児島式		短冊に「日置瓦丸に増」刻印013-12/丸に「小」刻印038-1(右周縁)	19C	唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	394
	86	395	御角櫓跡/L-1 造成土	－	－	41	22								
B-018	86	399	御角櫓跡/L-1,2 ベルトⅢ層	－	－	40	23	桟	×	鹿児島式		丸に「中」刻印037-1・037-2・037-4/短冊に「複数文字」刻印177	19C	唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	399
B-019	86	400	御角櫓跡	－	－	41	22	桟	×	鹿児島式		丸に「休」刻印039-3(左周縁)	19C	唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	金子先生提供
B-020	86	396	御角櫓跡/M-1造成土	－	－	－	23	桟	×	不明+鹿児島式		四角に「実」(右周縁)	19C	中心飾り中央下は茎状。脇下は直線状+下向き唐草状で尖る。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。両端下の唐草も下向きで尖る。	金子先生提供
	総括 76-95		大手口	119	－	38	22								
	総括 75-84		大手口	－	－	－	－								
	総括 76-94		大手口	－	－	38	20								
B-021	86	397	御角櫓跡/M-3 排水溝③上造成土	－	－	44	27	桟	×	連珠三巴右12珠+鹿児島式			19C	軒丸部珠文大きい。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に長めの唐草。	金子先生提供＋397
B-022	45	154	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	200	135	40	24	桟	×	連珠三巴右12珠+鹿児島式			19C	中心飾り脇やや大きい。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。	154
B-023	45	153	御楼門跡南側石垣周辺／N-17 43T 七高瓦溜り	－	－	40	23	桟	×	(無)+鹿児島式			19C	鎌軒桟瓦。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方長めの唐草とともに中心飾り付近まで延びる。	153
B-024	86	398	御角櫓跡/I-1七高校プールカクラン	－	－	34	18	桟	×	連珠三巴右11珠+鹿児島式			18－19C	連珠三巴文右巻12珠。小型。唐草と子葉は一体化し，文様両端下方に唐草。周縁広い。	398
C-001	楼門 55-138		K-27 枡排内エリア⑨	(267)	196	74	50	平	○	大坂亜式			17－18C	中心飾り脇十字形。体部裏面に×字状条線(4本×2条)。体長346。	楼門138
	楼門 56-139			295	192	72	50								
C-002	楼門 56-140		M-1 造成土	290	201	67	43	平	○	大坂亜式	本丸976/二丸473か		17－18C	中心飾り脇十字形。C-001類に似るが，右端子葉の位置が高い。	楼門140
C-003	52	197	御楼門跡南側石垣周辺/M・N-12・13 44T 瓦溜り	－	－	70	47	平	○	大坂亜式			17－18C	文様各単位が小さく散漫。左周縁狭い。	楼門141
	楼門 56-141		I-24 9T 造成土	(200)	(156)	73	48								

第 56 表　軒平瓦分類表８

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
C-004	87	401	御角櫓跡／MN-1　11T 造成土	－	－	65	46	平	(○)	大坂亜式			17－18C	中心飾り脇葉状。文様変形。	401
	－	－	－	－	－	－	－								
	－	－	－	(186)	(130)	－	48								
C-005	45	149	御楼門跡南側石垣周辺/N-17　43T 七高溜り	－	205	47	33	平	○	大坂亜式	本丸977		17－18C	大坂式から派生か。他のC種より小型。中心飾り脇下肥大。唐草と下方逆Y字子葉一体化。	金子先生提供
	87	404	御角櫓跡／N-1　造成土	－	－	49	34								
	楼門 56-142		J-25･26 SD 02	―	―	49	30								
C-005a	45	148	御楼門跡南側石垣周辺/ N-17　43T　七高溜り	272	207	50	32	平	○	大坂亜式	市二丸 165		17－18C	C-005類の唐草切込み浅くなる。	148
	楼門 56-143		K-23 ボーリング No.3	(183)	(157)	42	29								
C-006	87	406	御角櫓跡／一括	－	－	54	37	平	○	大坂亜式	二丸476か		17－18C	中心飾りくぼれ深い。C-002類に似るが唐草脇下の形状が異なる。	403
	87	402	御角櫓跡／一括	－	－	56	35								
	87	403	御角櫓跡/M-1 排水溝③ 造成土	310	215	62	43								
	総括 66-77		本丸東堀／64T　表層	－	－	－	－								
	楼門 56-144		M-27 焼土	―	(189)	60	44								
	楼門 56-145		I-2321T 瓦集中部	(190)	(130)	―	―								
C-007	87	407	御角櫓跡／M-1造成土	－	－	67	51	平	○	大坂亜式			17－18C	C-005類に似るが唐草脇下の形状が異なる。	407+405
	87	405	御角櫓跡／L-1･2　Ⅰ・Ⅱ層	－	－	68	51								
D-001	楼門 56-146		N-20 1T 造成土	235	133	33	19	平	○	異形唐草			17C	陶器瓦。褐色の釉薬が全面に厚く掛かる。小型で瓦当は低い。魚骨様の唐草文。中心飾り葉状で非対称。左右周縁広い。堂平窯2-282か。	楼門146
D-002	87	408	御角櫓跡／L-1　造成土	<325>	<208>	73	44	平	×	下向三葉-唐草上下	本丸973･974	角に「木（篆）」(刻印065)（右周縁）	18C	中心に中央の凹む三葉を配し，脇に内湾する子葉，細身の唐草2対を配する。中心飾り上部に丸形。唐草は先端が丸い。体部釘穴あり。隅軒平あり(P1217)。	楼門147
	楼門 56-147		L-26 枡排内 エリア⑦	(325)	208	71	47								
D-003	52	198	御楼門跡南側石垣周辺/M･N-12･13　44T 瓦廃棄土坑	<269>	163	48	31	平	(×)	上向三葉-唐草下上			17－18C	文様は細い線描。中心に上向き三葉を配し，細身の唐草2対を配する。第2唐草は長く，中心飾り下に達する。焼成良好。	楼門148
	45	152	御楼門跡南側石垣周辺/N-17　43T七高瓦溜り	－	－	－	－								
	楼門 56-148		L-27 枡排内 エリア⑩	269	159	49	33								
D-004	楼門 56-149		L-26 枡排内 エリア⑦ L-27 枡排内 エリア⑧	(265)	(202)	72	44	平	×	下向三葉-唐草上下			18C	D-002類･D-007同文。中心に中央の凹む三葉を配し，脇に内湾する子葉，細身の唐草2対を配する。中心飾り上部は珠文となる。唐草は先端が尖る。体長356。釘穴1。	楼門149
D-005	45	150	御楼門跡南側石垣周辺/ N-17 43T　七高瓦溜り	<271>	<159>	42	27	平	×	上向三葉-唐草下上			17－18C	文様はやや太い線描。中心飾りは中央に葉脈を有する三葉で，各葉の下に珠文を配する。唐草は巻き込み強く，第一唐草の背に第二唐草の基部が接する。体長293。	楼門150
	87	409	御角櫓跡 M-1 排水溝②埋土	－	－	45	28								
	87	410	御角櫓跡/ L-1　造成土	－	－	44	27								
	119	566	外御庭跡/ M-2' 堀カクラン	－	－	45	26								
	楼門 56-150		K-27 枡排内エリア⑬	271	159	43	25								

第 57 表　軒平瓦分類表９

分類	挿No	掲No	地区／区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平／桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
D-006	楼門57-151		L-27 枡排内エリア⑬	(172)	(92)	45	28	平	×	牡丹-唐草連続		あり	18－19C	中心飾りは五弁牡丹状。唐草は連続するが，中心飾り脇でY字になるなど大坂式の影響がうかがわれる。	楼門151
	楼門57-152		J･K-24 9T	―	―	―	―								
D-007	119	567	外御庭跡／M-2' 堀カクラン	― <323>	― <203>	61	43	平	×	下向三葉-唐草上下		長方折敷に「太左衛門」(隅)刻印026-3/丸に「唐草と瓦」刻印074(体部裏面中央)	18C	D-002･D-004類同文。中心に中央の凹む三葉，脇に内湾する子葉，細身の唐草2対を配する。中心飾り中央葉が右にずれ，右葉は下方がやや凹む。第1唐草内側が丸く，第2唐草先端尖る。	楼門153
	楼門57-153		I-25 9T 造成土	323	203	63	45								
	楼門57-154		N-23･24 石垣間側溝	―	(147)	58	40								
D-008	楼門57-155		K-28 造成土	―	―	33	19	平	×	上向三葉-唐草下上	市二G289		17－18C	中心飾り上向三葉。細く長い唐草を配する。左周縁広い。古様。	楼門155
D-009	87	412	御角櫓跡/A-C-1-4 造成土	-	-	48	25	平	×	牡丹-唐草連続			18－19C	中心飾りは三弁牡丹状。唐草は連続し，枝端は尖るが，末端は丸みを帯びる。瓦当面に雲母目立つ。	金子先生提供
	楼門57-156		H-25 造成土	―	―	47	25								
	楼門57-157		I-24 9T 瓦集中部①	―	153	48	25								
D-010	楼門57-158		I-27 34T-2 造成土	260	183	50	24	平	×	上向三葉+唐草下上			17C	古様。左右周縁やや狭い。上部面取り大。	楼門158
D-011	楼門57-159		J-20･21 造成土	―	―	34	18	(平)	○	異形唐草			17C	陶器瓦。D-001類同文。褐色の釉薬が全面に厚く掛かる。瓦当面は釉がやや白濁する。小型で瓦当は細い。魚骨様の唐草文。中心飾り葉状非対称。堂平窯2-273/274か。	楼門159
D-012	楼門57-160		I-27 造成土	―	―	38	22.5	(平)	×	上向三葉下-唐草下？			17C	古様。中心飾り脇は二重線となる。唐草は細く巻き込み強い。軒丸A-018類とセットの可能性高い。	楼門160
D-013	楼門57-161		―	―	―	―	―	平		異形唐草			17C	異様。細葉状文様と待ち針様の文様が外に展開。胎土は黒色。左周縁きわめて狭い。瓦当裏面に布目。朝鮮系か。	楼門161
D-014	―		―	(168)	(109)	44	26	桟	(×)	牡丹-唐草上上(連続)下	本丸967･968		18－19C	鎌軒桟瓦。中心飾りは牡丹状。文様区左上斜めにカット。	本丸968
	-		―	(231)	(122)	―	26								
D-015	楼門57-162		I-24 9T	(272)	195	40	25	平	○	一葉-散			17－18C	瓢箪形の中心飾りに細葉状唐草2対が広がる。瓦当貼り付けだが，大型でない。体長302。体部釘穴なし。	楼門162
D-016	―		3 3黒褐	(125)	(93)	42	23	平	(×)	上向三葉-唐草下上	市二G291		17C	古様。唐草細く長く伸びる。	 市二G291
D-017	楼門57-163		K-1 排水溝⑦ 埋土	(131)	(100)	39	23	(平)	×	上向三葉-唐草下上	市二G292		17C	古様。中心飾りやや小さい。唐草細い。	楼門163
D-018	楼門57-164		調査区2 3T 造成土	―	―	57	39	平	×	下向三葉-唐草上下			18C	D-002類同文。脇に内湾する子葉，細身の唐草2対を配する。D-007に近いが，唐草-上部周縁余白狭い。中心飾りは不明。右端唐草は先端が尖る。	楼門164

第 58 表　軒平瓦分類表 10

分類	挿No	掲No	地区/区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平/桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
D-019	楼門 57-165		K-28 32T 造成土	—	—	40	19	(平)	×	下向三葉-唐草下上連続			17C	古様。唐草細く連続する。	楼門165
D-020	87	411	御角櫓跡/L-2 排水溝③ 造成土	-	-	34	21	平	×	上向三葉-唐草下上			17C	古様。中心飾り二重線。左周縁広い。唐草細い。表面黒色，胎土黒褐灰。	楼門166
	楼門 57-166		L-2 攪乱	(170)	(117)	35	19								
D-021	楼門 57-167		L-28 造成土	—	—	40	25	(平)		異形唐草			17-18C	古様。異形唐草。胎土黒色。朝鮮系か。	楼門167
D-022	楼門 57-168		K-28 造成土	—	—	(38)	20	(平)	×	上向三葉-波状唐草下上			17C	古様。中心飾り幅広。	楼門168
D-023	63	249	御楼門跡南側石垣周辺/M-8 41T 造成土	-	-	38	21	平	×	上向三葉-唐草下上			17C	古様。中心飾り上向き三葉で中心単線となる。	249
	楼門 57-169		K-28 造成土	(130)	(80)	38	20								
D-024	楼門 57-170		I-20 造成土	—	—	—	22	桟	×	不明+橘-唐草連続			18-19C	D-006類同文。中心飾り下小。	楼門170
D-025	楼門 57-171		N-8 41T	(220)	—	43	—	桟	(×)	無+無		四角に「日置瓦 産業組合」刻印013-1/四角に「日置瓦増」刻印013-2/四角に「日置瓦○ひ増」刻印013-3	19-20C	軒丸部・軒平部平坦。軒平部中央左寄りに刻印。軒丸部径86。日置瓦。	楼門171
D-026	楼門 58-172		M-24 攪乱	(80)	—	—	—	桟	(×)	無+無		角に「日」刻印113-2(軒丸部中央)/丸に「日」刻印113-1(軒丸部中央)	19-20C	軒丸部・軒平部平坦。軒丸部中央に刻印。軒丸部径80。日置瓦。	楼門173
	楼門 57-173		E-1' 42T	(149)	—	43	—								
D-027	楼門 58-174		J-29 45T テニスコート下	—	(87)	37	21	(平)	×	下向三葉-唐草下上下上連続			17-18C	古様。胎土黒色。唐草連続。朝鮮系か。	楼門174
D-028	楼門 58-175		J-28 45T 攪乱	—	—	39	22	(平)	×	上向三葉+唐草下上			17C	古様。中心飾り上三葉に中心線。焼成甘い。	楼門175
D-029	楼門 58-176		J-28,45T 造成土	(159)	(115)	35	20	平	○	異形唐草			17C	陶器瓦。D-011類同文。堂平窯系。	楼門176
	楼門 58-177		J-29,45T 造成土	—	—	32	19								
D-030	楼門 58-178		M-27 造成土	—	—	39	19	(平)		不明-？唐草上			17C	胎土黒色。右周縁狭い。朝鮮系か。	楼門178
D-031	—		—	-	-	36	15	(平)	○	異形唐草	本丸1011		17C	陶器瓦。D-011類同文。堂平窯系。	本丸1101
D-032	—		—	310	—	51	—	桟	(×)	無+無	二丸496・499・500		19-20C	軒丸部・軒平部平坦。軒丸部径78。軒平部瓦当裏に丸み。瓦当右端大きく面取。	二丸496
D-033	—		—	-	—	(45)	—	桟	(×)	饅頭+無	二丸498・501		19-20C	軒丸部大型。調整丁寧。軒丸部饅頭状，軒平部平坦。軒丸部径102/105。軒平部瓦当裏面取。	二丸498

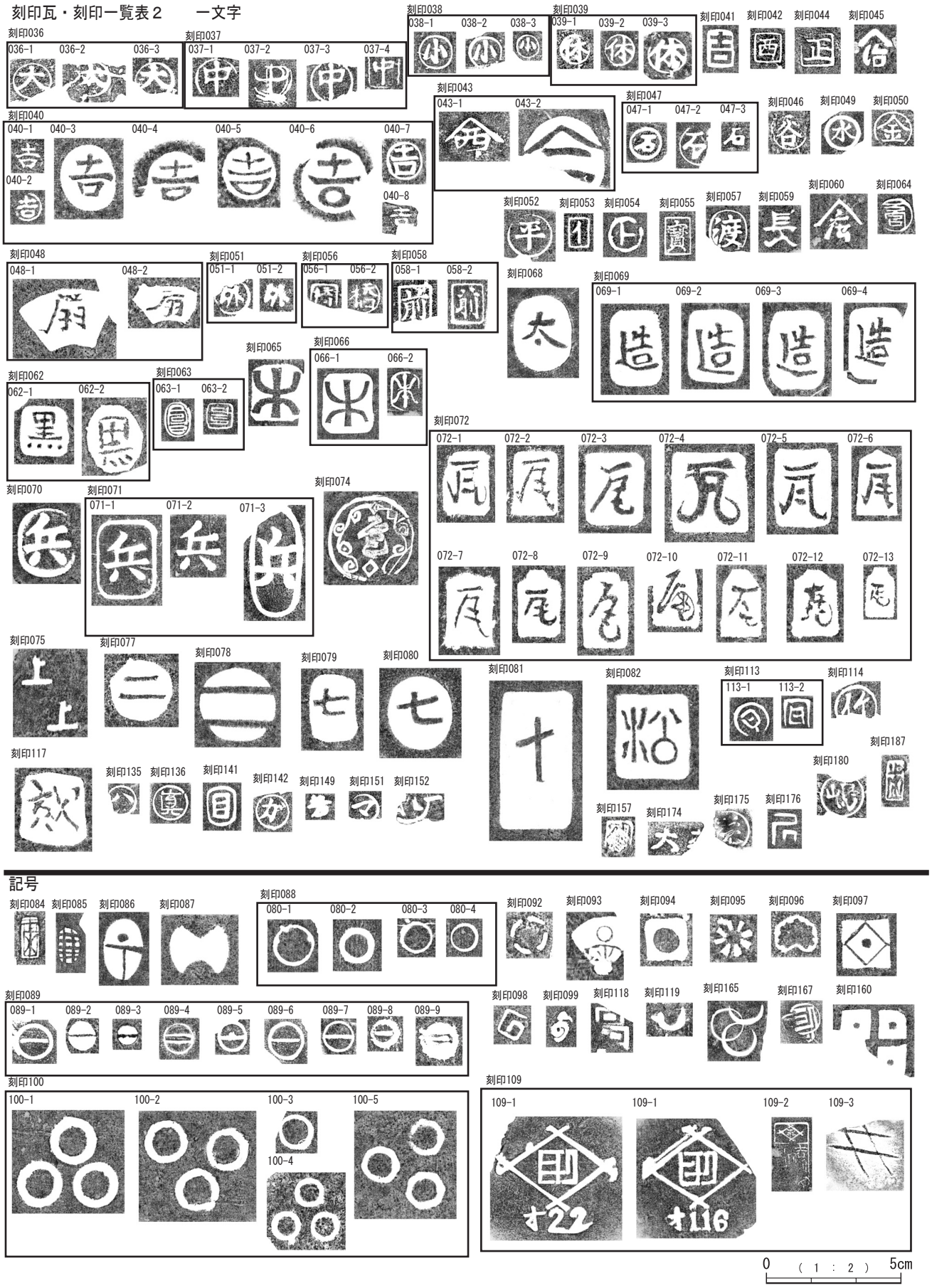
第 59 表　軒平瓦分類表 11

分類	挿No	掲No	地区/区・層	瓦当幅(mm)	文様区幅(mm)	瓦当高(mm)	文様区高(mm)	平/桟	瓦当貼	文様	掲載	刻印	年代	特徴	図版
D-034	45	151	御楼門跡南側石垣周辺	-	-	40	20	(平)	×	不明-唐草？上下連続			17C	古様。唐草細い。表面黒色，胎土黒褐灰。朝鮮系か。	151
D-035	45	155	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 43T 七高瓦溜り	-	-	-	29	桟	×	連珠三巴右12珠+牡丹-唐草上上(連続)下		丸に「吉」刻印040-7/口に「吉」刻印041(右周縁)	18-19C	D-014同文。中心飾りは牡丹状。文様区左上斜めにカット。	155
	45	156	御楼門跡南側石垣周辺/N-17 43T 七高瓦溜り	-	-	-	30								
D-036	52	199	御楼門跡南側石垣周辺/7	-	-	60	42	(平)	○	花状-唐草連続			17-18C	牡丹状の中心飾りから外側に，複雑な唐草文が連続する。	199
D-037	32	98	北御門跡石垣修復/a・b-38・39 3段目区層	215	137	37	19	平	○	異形唐草			17C	陶器瓦。D-011類同文。凹面に縦方向のケズリ。堂平窯系。	98
D-038	130	667	能舞台跡/H・I-11・12造成土	-	-	48	27	桟	×	(無)+不明-唐草散			19C	鎌軒桟瓦。大坂式の崩れた印象の中心飾りから，子葉，唐草が伸びる。	金子先生提供＋667
D-039	63	250	御楼門跡南側石垣周辺/M-8 41T カクラン	-	―	45	―	桟	×	無		丸に「中」刻印037-1(軒平部中央部)	19-20C	軒平部平坦。瓦当部上面薄く面取り。	250
D-040	16	43	北御門跡周辺/ c-36 カクラン	-	-	45	23	桟	×	8弁花-異形唐草			18-19C	熊本城跡・福岡県久留米市善導寺に同文あり。唐草文は文様区途中で終わり，次の唐草文が続く。	43
D-041	119	565	外御庭跡/N-2' 東側堀埋土	-	-	29	19	平	×	三重円-異形唐草			17C	古様。中心飾り三重円状(宝珠か)文。焼成甘い。胎土黒色。朝鮮系か。	565
D-042	119	568	外御庭跡/K-1'	-	-	41	25	平	×	不明＋唐草下上下連続			17C	古様。連続する唐草文。焼成甘い。	568
D-043	―		―	-	-			(平)	×	上向三葉-唐草下上	犬追71		17C	古様。中心飾り大きく葉脈あり。中心飾り下方に点珠3。	犬追071
D-044	30	81	北御門跡石垣修復/a・b-38・39 布崩し積み石垣裏込め	-	-	32	21	平	×	上向三葉-唐文上下			17C	古様。外側に巻込強い唐草文。	202
D-045	総括 85-134		琉球館跡	-	―	48	―	桟	×	(無)+無		四角に「安富」刻印184(軒平部中央部)	19-20C	鎌軒桟瓦。軒平部平坦で中央に刻印。	総括134
D-046	総括 88-141		吉野堀	-	-	-	-	桟	×	羯磨文+不明			19-20C	軒丸部のみ確認。密教法具の羯磨文を配し，最大乗院(真言宗)関連のものの可能性がある。	総括141

第 60 表　小菊瓦分類表

分類	図版・法量(mm)・特徴			分類	図版・法量(mm)・特徴			分類	図版・法量(mm)・特徴		
001	楼門179	地区	御角櫓跡	002	楼門180	地区	北御門跡周辺/御角櫓跡/御角櫓跡西側石垣周辺/本丸外郭堀跡/唐御門跡	003	楼門181	地区	―
		区				区				区	―
挿No	掲No	瓦径	90～9.3	挿No	掲No	瓦径	87～93	挿No	掲No	瓦径	93
		文径	74～77			文径	72～77			文径	67
		内径	58～61	16	45	内径	54～93	楼門58-181		内径	57
87	414	芯径	10～12	87	413	芯径	8～13			芯径	8
		瓦厚	18～24	101	503	瓦厚	21～24			瓦厚	18
楼門58-179	文様　11弁菊花　掲載 二丸457・459・462・463・464・466	体幅	77～90	119	569	文様　11弁菊花　掲載 二丸458・461・465/市二丸177・178・180	体幅	82～90	文様　12弁菊花　掲載 本丸995/市二丸181・182・197	体幅	81
	弁端尖る。花弁薄い。瓦当厚い。体部末端は平ら。	奥行	80～113	総括39-17	弁端尖る。001類に似るが花弁厚い。花弁明瞭なもの，やや大ぶりのものあり，細分できるか。体部末端は丸みを帯びるが，尖るものもあり。	奥行	86～113		弁端尖る。右上（が主）弁内部に傷。体部末端尖るもの多い。体部に「丸」に「金」」の刻印資料あり(市二丸199)。	奥行	(93)
		年代	18-19C	楼門58-180		年代	18-19C			年代	18-19C
004	楼門182	地区	楼門門南側石垣南辺/能舞台跡	005	楼門183	地区	―	006	楼門184	地区	―
		区	N-17 48T/H-1・2			区	―			区	―
挿No	掲No	瓦径	92	挿No	掲No	瓦径	79	挿No	掲No	瓦径	144
		文径	74～76			文径	57			文径	115
45	158	内径	60～61	楼門58-183		内径	50	楼門58-184		内径	97
		芯径	8			芯径	7			芯径	13
130	670	瓦厚	15～20			瓦厚	17			瓦厚	18
	文様　11弁菊花　掲載 本丸997/二丸460・467	体幅	80～90		文様　12弁菊花　掲載 本丸996/市二丸179?	体幅	―		文様　7弁菊花　掲載	体幅	132
楼門58-182	弁端尖る。右上（が主）弁内部に傷。体部末端尖るもの多い。	奥行	122～139		小型。弁端尖る。周縁内左上に傷。花芯脇に小傷。体部丸瓦形のものあり(本丸996・末端形状は不明)。	奥行	(26)		弁端尖る。	奥行	(34)
		年代	18-19C			年代	18-19C			年代	18-19C
007	楼門185	地区	楼門門跡南側石垣周辺	008	本丸959	地区	―	009	本丸962	地区	唐御門跡
		区	瓦集中部			区	―			区	
挿No	掲No	瓦径	146～(147)	挿No	掲No	瓦径	146	挿No	掲No	瓦径	(―)
		文径	(111)～140			文径	109			文径	(―)
45	157	内径	84～93	―	―	内径	90	総括39-18		内径	(―)
		芯径	11～13			芯径	12			芯径	(8)～9
		瓦厚	14～26			瓦厚	24			瓦厚	―
楼門58-185	文様　8弁菊花(陰)　掲載 本丸961/二丸453・454/	体幅	145～147		文様　8弁菊花(陽)　掲載　本丸959・960	体幅	135	楼門58-186	文様　8弁菊花(陰)　掲載　本丸962・963	体幅	―
	弁端尖る。弁に丸み。先回調査分は体部丸瓦形(末端形状は不明)。	奥行	(137)～(150)		弁端尖る。弁に丸み。	奥行			007類に似るが，やや小さい。	奥行	(―)
		年代	18-19C			年代	18-19C			年代	18-19C
010	楼門187	地区	―	011	市二丸176	地区	―	012	楼門188	地区	―
		区	―			区	―			区	―
挿No	掲No	瓦径	85	挿No	掲No	瓦径	70	挿No	掲No	瓦径	82
		文径	72			文径	54			文径	58
楼門58-187		内径	61	―	―	内径	6	楼門58-188		内径	51
		芯径	10			芯径	9.9			芯径	12
		瓦厚	19			瓦厚	13			瓦厚	20
	文様　11弁菊花(陰)　掲載	体幅	70		文様　10弁菊花(陰)　掲載　市二丸176	体幅	―		文様　12弁菊花(陰)　掲載	体幅	77
	花弁高い。弁端尖る。花弁のへこみが弁端に達する。	奥行	98		弁端尖る。001類よりも弁間切り込み深い。	奥行	99		弁端尖る。花弁へこみ斜めに入る。弁間3ヶ所に笵傷。	奥行	98
		年代	18-19C			年代	18-19C			年代	18-19C
012a	楼門189	地区	―	013	楼門190	地区	―	014	楼門191	地区	―
		区	―			区	―			区	―
挿No	掲No	瓦径	84	挿No	掲No	瓦径	80	挿No	掲No	瓦径	82
		文径	59			文径	66			文径	64
楼門58-189		内径	55	楼門58-190		内径	61	楼門58-191		内径	51
		芯径	10			芯径	8			芯径	(8)
		瓦厚	17			瓦厚	21			瓦厚	14
	文様　12弁菊花(陰)　掲載	体幅	60		文様　11弁菊花(陰)　掲載	体幅	70		文様　12弁菊花(陰)　掲載	体幅	76
	012類の文様上部花弁一周縁間に笵傷。製作にばらつき。	奥行	70		弁端尖る。003類に似るも，花弁数異なる。体部先端尖る。	奥行	(114)		002類に似るが，文様縮小。体部先端尖る。	奥行	134
		年代	18-19C			年代	18-19C			年代	18-19C
015	楼門192	地区	―	016	本丸1000	地区	―	017	415	地区	御角櫓西側石垣周辺
		区	―			区	―			区	J-1・2
挿No	掲No	瓦径	82	挿No	掲No	瓦径	90	挿No	掲No	瓦径	
		文径	63			文径	65			文径	
楼門58-192		内径	55	―	―	内径	―	87	415	内径	
		芯径	10			芯径	―			芯径	12
		瓦厚	22			瓦厚	22			瓦厚	22
	文様　12弁菊花(陰)　掲載	体幅	73		文様　三追格紋　掲載　本丸1000	体幅	80		文様　12弁菊花(陰)　掲載　市二丸181か	体幅	
	弁端尖る。012類に似るが，花芯小さい。	奥行	122		体部裏面中央より突起状。	奥行	54		弁端尖る。やや大きい。	奥行	
		年代	18-19C			年代	18-19C			年代	18-19C

第 156 図　刻印瓦刻印一覧１



第 157 図　刻印瓦刻印一覧２

第 61 表　刻印瓦検出数・瓦種表 1

刻印No.	内容	検出瓦数	瓦種(検出数順)
刻印001	太喜	103	桟, 丸, 平, 軒平, 軒桟
刻印002		0	統合のため欠番
刻印003	太宗	136	平, 丸, 桟, 軒平, なまこ, 軒丸, 軒桟, 伏間
刻印004		0	統合のため欠番
刻印005	玉水堂	76	平, 桟, 丸, 軒桟, 軒丸
刻印006		0	統合のため欠番
刻印007	上伊敷土	19	平, 軒平, 桟
刻印008	川南製	4	桟
刻印009	荒瓦安	9	桟, 平, 軒平
刻印010	谷新製	2	平
刻印011	菊間松自	1	平
刻印012	日置吉利瓦	1	平
刻印013-1	日置瓦産業組合	17	桟, 軒桟
刻印013-2	日置瓦増	2	桟, 軒桟
刻印013-3	日置瓦濱	8	桟, 軒桟
刻印013-4	日産レ	3	桟
刻印013-5	日置瓦敷	1	桟
刻印014	本場二日置	1	丸
刻印015-1	河野製造＋正・ト・ロ・ニ野河	61	桟, 平, 伏間
刻印015-2	特別河野製	4	桟
刻印015-3	野河ロ	1	平
刻印016	伊庄	3	平, 丸
刻印017	池田	1	軒桟
刻印018	モイ	1	平
刻印019	瓦政	1	平
刻印020	森元	4	平, 軒桟
刻印021	小八	1	丸
刻印022	山下小	3	平
刻印023	●●産業組合　上	1	平
刻印024	瓦座	1	平
刻印025	木藤	11	丸, 平, 軒丸, 桟
刻印026-1	太左衛門	20	平
刻印026-2	太左衛門	35	平, 丸
刻印026-3	太左衛門	30	平, 丸, 軒丸, 桟
刻印026-4	太左衛門	23	平, 丸
刻印026-5	太左衛門	5	平
刻印026-6	太左衛門	16	平
刻印026-7	太左衛門	7	丸, 平
刻印026-8	太左衛門	1	平
刻印027-1	正衛門	82	平, 丸, 軒丸, なまこ
刻印027-2	正衛門	43	平, 丸, 軒丸
刻印027-3	正衛門	2	丸, 平
刻印028	西村製	1	桟
刻印029		0	統合のため欠番
刻印030	製宮一馬城	5	桟
刻印031-1	造製巻荒本	9	桟
刻印031-2	製巻荒本	2	桟
刻印031-3	製巻荒本＋〇十	3	桟
刻印031-4	製巻〇	1	桟
刻印032	弥吉	1	平
刻印033	重米	1	平
刻印034	田内	2	桟
刻印035	庄土	7	桟
刻印036-1	大	28	桟, 軒平, 平, 丸, 軒丸, 軒桟
刻印036-2	大	1	桟
刻印036-3	大	2	桟
刻印037-1	中	23	桟, 平, 丸, 軒平, なまこ
刻印037-2	中	18	桟, 丸, 軒平, 軒丸
刻印037-3	中	2	丸, 平
刻印037-4	中	8	桟, 平, 軒桟
刻印038-1	小	13	平, 軒桟, 丸, なまこ, 軒平, 桟
刻印038-2	小	1	軒丸
刻印038-3	小	7	桟, 平, 軒丸
刻印038-4	小	12	桟
刻印039-1	休	149	平, 桟, 丸, 軒丸, 軒桟, なまこ, 軒平
刻印039-2	休	6	平, 軒丸, 軒平, 桟
刻印039-3	休	7	平, 丸, 桟, 軒桟, なまこ
刻印040-1	吉	7	桟, 軒桟
刻印040-2	吉	14	桟
刻印040-3	吉	44	平, 丸, なまこ
刻印040-4	吉	3	平
刻印040-5	吉	2	平
刻印040-6	吉	1	平

刻印No.	内容	検出瓦数	瓦種(検出数順)
刻印040-7	吉	3	軒桟
刻印040-8	吉	1	平
刻印041	吉	68	桟, 平, 丸, 軒丸, 軒平, 軒桟
刻印042	西	4	桟, 平
刻印043-1	山西	20	平, 桟, 丸, 軒平, 軒桟
刻印043-2	山西	1	丸
刻印044	正	1	軒桟
刻印045	山治	1	軒丸
刻印046	谷	10	桟, 丸, 平, 軒平, 軒桟
刻印047-1	石	36	桟, 丸, 平, 軒平, 軒桟
刻印047-2	石	5	平, 桟, 軒桟
刻印047-3	石	12	平
刻印048-1	扇	2	丸
刻印048-2	扇	1	丸
刻印049	水	4	桟
刻印050	金	14	丸, 平, 軒桟, 軒丸, 軒平
刻印051-1	外	3	桟
刻印051-2	外	3	桟
刻印052	平	35	桟, 丸, 平, 軒丸, 軒桟, なまこ
刻印053	イ	3	桟
刻印054	ト	16	平, 丸, 桟
刻印055	寶	7	丸, 桟, 軒桟
刻印056-1	橋	5	桟
刻印056-2	橋	7	桟, 伏間
刻印057	渡	47	桟, 平, 軒桟, なまこ
刻印058-1	前	4	平, 桟
刻印058-2	前	10	平, 軒平, 軒桟
刻印059	長	9	平
刻印060	山庄	1	丸
刻印061	帖	0	統合のため欠番
刻印062-1	黒	5	平, 丸
刻印062-2	黒	11	平, 丸
刻印063-1	〇	44	丸, 平, 桟, 軒丸, 軒平
刻印063-2	〇	4	桟
刻印064	〇	3	桟
刻印065	木	11	平, 丸, 桟, 軒平
刻印066-1	木	14	桟, 丸, 平, 軒丸, 軒平, 鳥ぶすま
刻印066-2	本	1	平
刻印067	サカ	9	桟, 平
刻印068	太	1	平
刻印069-1	造	8	丸, 軒丸, 平, なまこ
刻印069-2	造	6	平, 丸
刻印069-3	造	3	平
刻印069-4	造	4	平, 桟
刻印070	兵	2	平, 軒丸
刻印071-1	兵	25	平, 丸, 桟
刻印071-2	兵	8	丸, 平, 軒丸
刻印071-3	兵	1	平
刻印072-1	瓦	4	丸, 平, 軒丸
刻印072-2	瓦	5	平
刻印072-3	瓦	1	桟
刻印072-4	瓦	1	桟
刻印072-5	瓦	10	平
刻印072-6	瓦	11	平
刻印072-7	瓦	3	平, 丸, 桟
刻印072-8	瓦	1	平
刻印072-9	瓦	5	平
刻印072-10	瓦	2	平
刻印072-11	瓦	1	平
刻印072-12	瓦	1	平
刻印072-13	瓦	1	平
刻印073		0	統合のため欠番
刻印074	瓦	3	丸, 軒平
刻印075	上	3	平
刻印076		0	統合のため欠番
刻印077	二	11	平, 丸
刻印078	二	16	平, 丸, 桟
刻印079	七	23	平, 丸, 桟
刻印080	七	11	平
刻印081	十	5	平
刻印082	松	3	平
刻印083		0	統合のため欠番
刻印084	記号	7	桟, 平, 軒桟
刻印085	記号	11	桟, 丸, 軒桟

第 62 表　刻印瓦検出数・瓦種表 2

刻印No.	内容	検出瓦数	瓦種(検出数順)
刻印086	記号	1	平
刻印087	記号	2	平
刻印088-1	○	13	平, 丸, 桟
刻印088-2	○	31	平, 丸, 桟
刻印088-3	○	10	桟, 平, 丸
刻印088-4	○	2	平
刻印089-1	○に一	6	平
刻印089-2	○に一	1	平
刻印089-3	○に一	9	桟, 軒桟
刻印089-4	○に一	1	桟
刻印089-5	○に一	7	桟, 平, なまこ
刻印089-6	○に一	25	平, 丸
刻印089-7	○に一	14	桟, 平, 丸, 軒丸, 軒平
刻印089-8	○に一	2	平
刻印089-9	○に一	1	丸
刻印089-10	○に一	4	平, 桟
刻印090		0	統合のため欠番
刻印091		0	統合のため欠番
刻印092	破線○	1	なまこ
刻印093	日の丸扇	2	平
刻印094	四角に●	11	平
刻印095	記号	1	平
刻印096	記号	1	平
刻印097	記号	6	桟, 平
刻印098	記号	3	桟, 平
刻印099	記号	1	平, 丸
刻印100-1	○が３つ	7	平, 丸
刻印100-2	○が３つ	14	平
刻印100-3	○が３つ	2	平
刻印100-4	○が３つ	6	平, 丸
刻印100-5	○が３つ	8	平, 丸
刻印101	○津西　橋本製	2	伏間
刻印102	●武町　●製瓦　●田製	1	平
刻印103	筑後　御船製	2	平
刻印104	筑後　御船製	0	統合のため欠番
刻印105	～京都出●	1	平
刻印106	立門学	1	平
刻印107	我, 乗, 愛のいずれか	1	平
刻印108	土山●守	1	平
刻印109-1	井囲み記号	34	桟, 平
刻印109-2	井囲み　●●…	1	桟
刻印109-3	井	1	桟
刻印110	イサ	1	平
刻印111	●ニシ	2	桟
刻印112	比一	8	桟
刻印113-1	日	12	桟, 軒桟, 平
刻印113-2	日	6	桟, 軒桟, 伏間
刻印114	竹	1	桟
刻印115	川	1	桟
刻印116		0	統合のため欠番
刻印117	戴	3	丸
刻印118	記号	1	桟
刻印119	し	6	桟
刻印120		0	統合のため欠番
刻印121	製官	1	不明
刻印122	川●…	1	桟
刻印123	原？	1	桟
刻印124	製機許特式分森　社会式株売販造製瓦械機置日　場本置日マツサ	4	桟, 平
刻印125	製機許特式分森　製械機場工瓦製菌上町内川･マツサ	5	桟
刻印126	●●　敷熊瓦	2	桟
刻印127	帖　●　市　●	1	桟
刻印128	●　佐　●場工瓦	0	統合のため欠番
刻印129	機許特式分森　社会名合瓦置日　製械機	4	桟, 平
刻印130	右上四角	1	桟
刻印131		0	統合のため欠番
刻印132	嘉菜●	1	桟
刻印133		0	統合のため欠番
刻印134	源油	3	桟
刻印135	ハ	2	桟
刻印136	眞	2	平, 軒平
刻印137		0	統合のため欠番
刻印138	日キ	12	桟, 軒桟
刻印139	●●　菊間玉伊	1	桟
刻印140	カワ	2	桟
刻印141	目	3	桟, 軒丸
刻印142	ガ	1	桟
刻印143	カミ	1	桟
刻印144	不明	1	桟
刻印145		0	統合のため欠番
刻印146		0	統合のため欠番
刻印147	キ坂	1	桟
刻印148	製田池島●…	1	桟
刻印149	若	3	桟
刻印150	権	4	桟, 軒桟
刻印151	マ	1	桟
刻印152	ハー	1	桟
刻印153	製山谷	2	桟
刻印154	ハタ	2	桟
刻印155		0	統合のため欠番
刻印156	ふぢ	1	桟
刻印157	記号	1	桟
刻印158		0	統合のため欠番
刻印159		0	統合のため欠番
刻印160	ひし形４つ	1	丸
刻印161	吉利瓦組合	2	桟
刻印162	本藤	1	桟
刻印163	製川市●	1	桟
刻印164	村中島●	1	桟
刻印165	○３つ重ね	1	不明
刻印166	●同共●…	1	伏間
刻印167	正	1	軒丸
刻印168	●品化？	1	軒桟
刻印169	●●出●井上	1	桟
刻印170		0	統合のため欠番
刻印171		0	統合のため欠番
刻印172-1	土山●門	1	不明
刻印172-2	土山●門	1	桟
刻印173	●島●	1	桟
刻印174	●大●	1	桟
刻印175	栄	1	桟
刻印176	記号	2	平, 軒平
刻印177	●商業組合○	1	軒桟
刻印178	竹迫	1	軒桟
刻印179	大阪瓦屋九八郎	2	熨斗
刻印180	嶋	1	桟
刻印181	田中	1	桟
刻印182	キ	1	桟
刻印183	平の川製	1	桟
刻印184	安富	1	軒平
刻印185	泉州谷川　中喜	1	桟
刻印186	元坂置日	1	平
刻印187	歯	1	軒平

刻印 001 ～刻印 108 については，鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘報告書（205）鶴丸城保全整備に伴う埋蔵文化財発掘報告書１「鹿児島（鶴丸）城跡－御楼門周辺－」で既に報告されているが，その後の観察・研究で同一の刻印であると確認されるものが出てきた。そのため，同一の刻印であると確認されたものについては，刻印の番号を統合することにした。

刻印 109 以降については，それ以降の調査で確認をしたため，追加している。

姶良市教育委員会 2018『姶良市内遺跡発掘調査報告書』姶良市文化財調書報告書第７集
上田秀夫 1982「14 ～ 16 世紀の青磁の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会
大橋康二 1994『古伊万里の文様』理工学社
小野正敏 1982「14 ～ 16 世紀の染付碗」『皿の分類と年代，貿易陶磁研究』No. 2, 日本貿易陶磁研究会
加治木町教育委員会 1995『山元古窯跡』加治木町教育委員会発掘調査報告書１
加治木町教育委員会 2001『弥勒窯跡』加治木町埋蔵文化財発掘調査報告３
加治木町教育委員会 2003『御里窯跡』加治木町埋蔵文化財発掘調査報告４
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『雪山遺跡・猿引遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (53)
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
佐賀県立九州陶磁文化館 2016『日本磁器の源流』
佐賀県立九州陶磁文化館 2008『土の美古唐津－肥前陶器のすべて－』
薩摩伝承館 2014『大名茶の時代』薩摩と九州山口の茶陶
社会法人鹿児島共済会南風病院 1978『竪野（冷水）窯址』南風病院女子寮建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
関一之 2004「薩摩の茶入－御里窯跡出土品から－」『野村美術館研究紀要』13 野村美術館
関一之 203「18 世紀から 19 世紀の龍門司焼の特徴－胎土･成形･釉薬からみた変化－」『鹿児島考古』第 43 号鹿児島県考古学会
川内市歴史資料館 2000『用と美　平佐焼の世界展』
田澤金吾・小山富士雄 1941『薩摩焼の研究』東洋陶磁研究会
東京都埋蔵文化財センター 2003『汐留遺跡Ⅲ』東京都溝文化財センター調査報告第 125 集
太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊ＸＶ－陶磁器分類編 -』太宰府市の文化財第 49 集
調査課第一調査係 2014「収蔵遺物保存活用化事業－竪野（冷水）窯跡出土資料の再整理を中心に－」『縄文の森から』第７号
橋口亘 1999「薩摩出土の清朝磁器」『貿易陶磁研究』No. 19 貿易陶磁研究会
橋口亘 2002「鹿児島県地域における 16 世紀～ 19 世紀の陶磁器の出土様相」『鹿児島地域史研究』No. 1 鹿児島地域史研究会
橋口亘・上東克彦 2002「鹿児島県内の遺跡におけるヨーロッパ陶磁器－薩摩におけるヨーロッパ製陶器の需要から－」『からから』第 11 号鹿児島陶磁器研究会
南の縄文調査室 2016「竪野（冷水）窯跡出土の白薩摩型打ち製品の年代観」『縄文の森から』第９号鹿児島県立埋蔵文化財センター
森田勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2, 日本貿易陶磁研究会
渡辺芳郎 2004「元立院と龍門司－加治木・姶良系陶器編年のための仮設作業－」『姶良町内遺跡詳細分布調査報告書』姶良町教育委員会
渡辺芳郎 2006「江戸時代後期における薩摩磁器の生産と流通」『江戸時代後期における庶民向け陶磁器の生産と流通九州編』九州近世陶磁学会

その他

黒川忠広 2019「鹿児島県下の中世以降の硯とその産地について～企画展『遺跡でたどる幕末・明治の鹿児島』展示資料から～」『黎明館調査研究報告』第 31 集　鹿児島県歴史資料センター黎明館
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2018『河内山鉱山跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター調査報告書く（196）
前迫亮一 2003「発掘された鹿児島の戦争関連資料について－幕末～からアジア太平洋戦争終結まで」『鹿児島考古』第 37 号鹿児島県考古学会

主要引用・参考文献（遺構・全体）

大木公彦ほか 2016「鹿児島城趾のボーリング調査で見つかった火砕流堆積物の一考察」『鹿児島大学理学部紀要（地学・生物学）』(49) 鹿児島大学
太田秀春 2020「鹿児島城の近代」『鹿児島の城館』鹿児島歴史・美術センター黎明館
鹿児島県 1979『鹿児島県史料　忠義公史料第六巻』
鹿児島県 1981『鹿児島県史料　斉彬公士料第一巻』
鹿児島県 1984『鹿児島県史料　斉彬公史料第四巻』
鹿児島県 2013『鹿児島県史料　名越時敏史料三』
鹿児島県2019『鹿児島県史料　市来四郎一玉里島津家資料補遺』
鹿児島県教育委員会 1982『鹿児島（鶴丸）城本丸跡』鹿児島県教育委員会発掘調査報告書（26）
鹿児島県教育委員会 1990『鹿児島城二之丸跡（遺構編）』鹿児島県教育委員会発掘調査報告書（55）
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003『垂水・宮之城島津家屋敷跡』鹿児島県立埋図文化財発掘調査報告書 (48)
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2020『鹿児島（鶴丸城跡－御楼門周辺－』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (2005)
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2021『鹿児島城跡（犬追物馬場・火除地）』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 211
鹿児島県立埋蔵文化財センター 2022『鹿児島（鶴丸）城跡－総括報告書－』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (215)
鹿児島県歴史資料センター黎明館 2001「鶴丸城石垣補修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　鹿児島城御角櫓跡」『黎明館調査研究報告第 14 集』
鹿児島県歴史・美術センター黎明館 2020『鹿児島の城館』
鶴丸城御楼門建設協議会・鹿児島県 2016『鹿児島（鶴丸）城跡保存活用計画』
鶴丸城御楼門建設協議会 2021『鹿児島県指定史跡鶴丸城跡五郎音復元整備工事報告書』
徳永和喜 2010『偽金つくりと明治維新』新人物往来社
原口泉 1981『国立南九州中央病院　その土地の歴史的沿革』国立南九州中央病院
三木靖 2016「資料紹介：成尾常矩「鹿児島城屋形及び周辺図」」『鹿児島国際大学ミュージアム調査研究報告』第 13 集鹿児島国際大学ミュージアム
森新太郎 1899『鹿兒島土産　附共進會案内』 鹿児島活版所
三輪盤根 2005『照國神社誌』照國神社社務所

写　真　図　版

① 御進物蔵跡第 52-NTr 検出状況　② 御進物蔵跡第 52-NTr 排水溝　③ 御進物蔵跡第 52-STr 排水溝（南から）　④ 御進物蔵跡第 52-STr 排水溝（東から）
⑤ 北御門跡南発掘調査区水位観測井　⑥ 土橋２Tr 土橋石積接合部　⑦ 土橋２Tr 土橋石積接合部

図版２

①　上空から見た北御門跡石橋南発掘調査区（西から）　②　北御門跡石橋南発掘調査区排水溝（南から）　③　北御門跡石橋南発掘調査区排水溝２（西から）
④　北御門跡石橋南発掘調査区検出状況（南から）

① 上空から見た北御門跡調査区（西から） ② 北御門跡周辺石垣修復トレンチⅤ層検出状況（東壁） ③ 北御門跡周辺石垣修復トレンチ石垣検出状況（東から）
④ 北御門跡周辺石垣修復トレンチ石垣除去御状況（西壁） ⑤北御門跡石垣修復トレンチ石垣裏込め検出状況（西壁）

図版４

①　北御門跡石垣修復トレンチ布積石垣検出状況（北西から）　②　北御門跡石垣修復トレンチ胴木検出状況　③　北御門跡石垣修復トレンチ石垣（下二段）検出状況
④　北御門跡石垣修復トレンチ胴木検出状況　⑤　北御門跡石垣修復トレンチ東側完掘状況　⑥　北御門跡石垣修復トレンチ東壁土層断面　⑦　北御門跡石垣修復トレンチ裏込め検出状況

① 北御門跡石垣修復トレンチ西壁完掘状況　② 北御門跡石垣修復トレンチ東壁完掘状況

図版６

① 御兵具所跡 51Tr 遺構検出状況（北から） ② 御兵具所跡 50Tr 御兵具所跡基礎検出状況（南から） ③ 上から見た御兵具所跡 58Tr（東から）
④ 上から見た御楼門跡南側石垣周辺

① 上から見た御楼門跡南側石垣地区（南側） ② 御楼門跡南側石垣周辺 43Tr 石垣背面栗石検出状況 ③ 御楼門跡南側石垣周辺 43Tr 完掘状況（北西から）
④ 御楼門跡南側石垣周辺 36Tr 排水溝（南東から） ⑤ 御楼門跡南側石垣周辺 36Tr 排水溝（北西から）

図版８

① 御楼門跡南側石垣周辺 44Tr 排水溝（南東から） ② 御楼門跡南側石垣周辺 37Tr 排水溝（南から） ③ 上から見た御楼門跡南側石垣周辺（37Tr，41Tr，41Tr 拡張）
④ 御楼門跡南側石垣周辺 41Tr 拡張遺構検出状況（北から） ⑤ 御楼門跡南側石垣周辺 41Tr 拡張排水溝

① 御楼門跡南側石垣周辺 41Tr 立石　② 上から見た御角櫓跡周辺

図版 10

① 上から見た御角櫓跡　② 御角櫓跡排水溝・埋設切石積み遺構検出状況

① 御角櫓跡排水溝②検出状況（南から） ② 御角櫓跡基礎石列検出状況（北から） ③ 御角櫓跡排水溝①･②検出状況（北から） ④ 御角櫓跡排水溝⑥（北から）
⑤ 御角櫓跡排水溝⑤･⑥合流地点（西から） ⑥ 御角櫓跡排水溝⑤･⑥合流地点（北から） ⑦ 御角櫓跡南側土層断面（北から）

図版 12

① 上から見た御角櫓跡西側石垣周辺（東から） ② 御角櫓跡西側石垣周辺46Tr第七高等学校造士館プール遺構検出状況（南から） ③ 御角櫓跡西側石垣周辺48Tr石垣背面（西から）
④ 御角櫓跡西側石垣周辺47Tr排水溝②検出状況（東から） ⑤ 御角櫓跡西側石垣周辺石垣背面裏石垣天端検出状況（北西から）

① 上から見た外御庭跡調査区（東から） ② 上から見た外御庭跡調査区（西から）

図版 14

① 外御庭跡閉塞石垣（南西から） ② 外御庭跡石垣 B検出状況 ③ 外御庭跡堀犬走石垣検出状況 ④ 外御庭跡堀井堰根石，胴木検出状況（南から）
⑤ 外御庭跡石垣 A上面側排水溝検出状況（西から） ⑥ 外御庭跡堀井堰周辺石垣，土層断面（西から）

① 外御庭跡石垣 A 検出状況（西から） ② 外御庭跡井堰中央を通る排水溝検出状況（南から）
③ 御池跡 53Tr 遺構検出状況（南から） ④ 能舞台跡遺構検出状況（北から） ⑤ 能舞台跡遺構検出状況（南から）

図版 16

陶器瓦・古瓦・朝鮮系瓦

長崎瓦

図版 18

648
118
62
572
57
209
203
52
53
421
423
54
47
207
50
107
91
418
49
416
46

丸瓦・平瓦

425
10
646
427
426
251
15

1038
430
429
577
431
419
506
60
62

573
210
579
88
223
432
433
674
705
174
16

桟瓦・塀瓦・海鼠瓦・塼瓦

図版 20

鬼瓦

主要陶器類（１）

図版 22

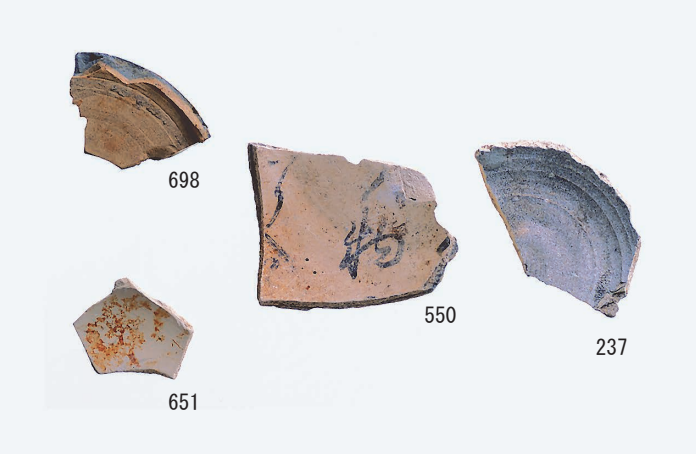
498
265
161
461
259
678
258
519
256
262
261
255
264
214
263
254

362
360
591
361
693

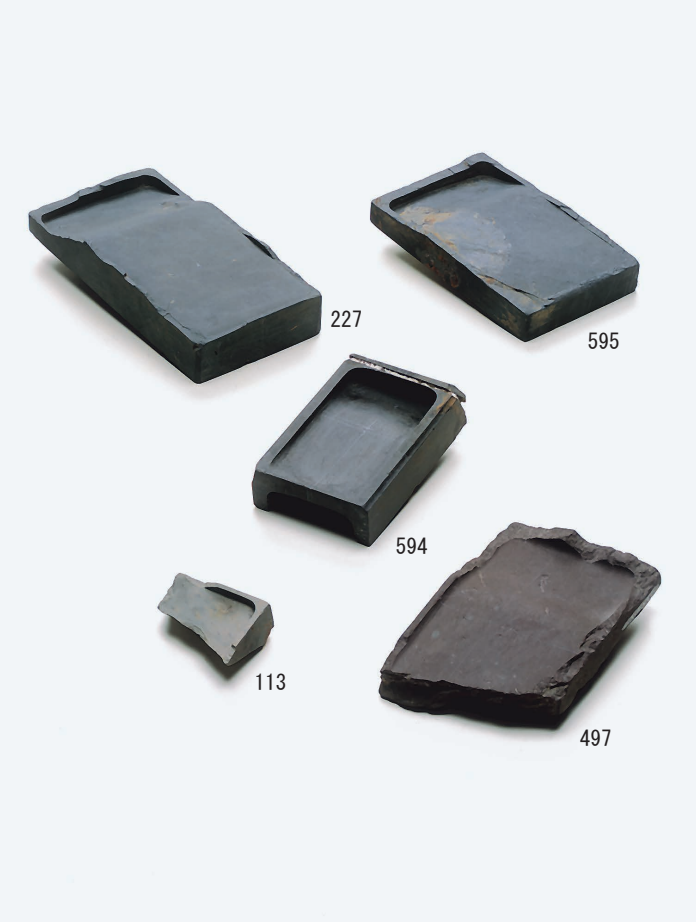
28
30
186
80
243
689
169
502

主要陶器類（２）

554
448
553
552
555
658
129
65
447
66
656
449
654
244
245
655
657
653
218
551
552
514


698
550
237
651

453
454
660
457
456
160
176
67
452
455
68
212
518
451
175


227
595
594
113
497

土製品・金属製品・硯

図版 24

木製品・近代陶磁器・ガラス製品

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(214)
鶴丸(鹿児島)城跡保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

鹿児島(鶴丸)城跡

― 北御門跡周辺・御角櫓跡周辺・能舞台跡ほか ―

発行年月　2022年3月
編集・発行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899－4318
鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL　0995-48-5811　FAX　0995-48-5820
印　　刷　株式会社イースト朝日
〒891－0122
鹿児島県鹿児島市南栄3丁目30－7
TEL　099-266-5522　　FAX　099-266-5523

鹿児島県